

環境に配慮したイベント（エコイベント）開催指針

平成28年12月28日策定

1 趣旨

イベントは、市が実施する各施策の普及、啓発等に有効な手段であることから、各所属で多く取組まれています。こうした事業は、不特定多数の来場者等があることから、一度に大量の資料が配布されるとともに、多くのエネルギーが使用されます。

また飲食を伴うものでは、コップやお皿などの資材も消費されます。

これらを環境の観点から捉えると、紙くず、容器などのごみの排出や電力、自動車等での参加によるガソリン消費など、一度に大量の資源、エネルギーが消費されているといえることから、市としてイベント等開催時に環境への配慮を呼びかける必要があります。

これらのことから、市が開催するイベントにおいて、自主的な環境配慮を徹底することで、環境負荷の軽減を図ること及び、環境に配慮したイベント実施に取り組んでいることを積極的にPRすることを目的として「環境に配慮したイベント（エコイベント）開催指針」（以下「指針」という。）を策定するものです。

2 対象イベント

市が開催するイベントには、式典や、講演会、シンポジウム、毎年実施しているフェスティバルや祭り、スポーツイベントなどがありますが、これらのうち、不特定多数の市民、事業者が自由に参加できるもので、市又は市が構成員となり主導する実行委員会等が主催するものを指針の対象とします。

3 環境配慮の内容

イベント実施時には、次に掲げる環境配慮を行うものとします。

（1）省エネルギー、省資源の推進

イベントでは、照明や空調使用に係る電気や紙資源の節約に努めるとともに、物品、サービスの購入にあたっては、環境に配慮したものを優先します。

（2）廃棄物の発生抑制及びリサイクルの推進

イベントの計画段階から、ごみになりそうな物品や再利用できない物品の購入、配布を可能な限り減らすとともに、発生が避けられないごみについては、再生利用と適正処理に努めます。

（3）運営体制の整備

環境に配慮したイベントを実施するための運営体制を整備し、計画的な事業実施に努めます。

（4）会場周辺の環境保全

会場周辺の自然環境の保全やタバコの吸殻などのごみのポイ捨て防止等に十分配慮し、環境に負荷を与えることのないよう努めます。

(5) イベントでのカーボン・オフセット^{※1}の実施

J-クレジット制度^{※2}等を活用し、イベント実施により直接的に排出される二酸化炭素や参加者が来場時に使用する自動車等から排出される二酸化炭素のオフセットに取り組めます。

4 環境に配慮したイベントの周知・環境保全活動の普及啓発

イベントは様々なものがあり、来場者の環境保全に対する理解や地球温暖化防止やごみの排出抑制の実践を促す良い機会といえます。

環境をテーマにしたイベントのみならず、各種イベントを通じて、下記事項を念頭に、市の環境に配慮した取組みを PR するとともに、市民等への環境保全に係る取組みの普及啓発を進めていきます。

- (1) 環境に配慮したイベントであることを積極的に PR します。
- (2) 環境配慮の取組内容を参加者に分かりやすく伝えるような取組を進めます。
- (3) 参加者の自主的な環境保全の取組みを促進します。
- (4) 環境保全に関する情報提供に努めます。

※1：カーボン・オフセット

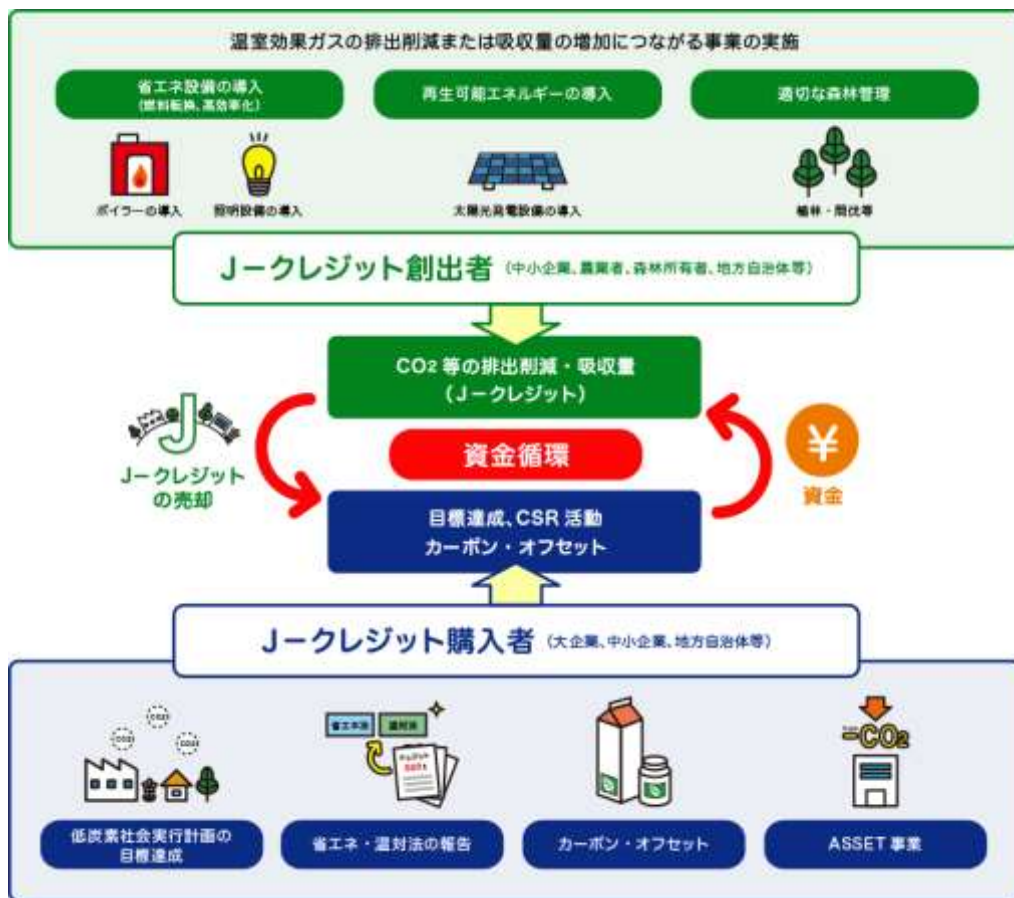
自分の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット(埋め合わせ)すること。



出典：環境省 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について（指針）

※2：J-クレジット

緑化や省エネルギー、再生可能エネルギー設備の導入などによって削減されたエネルギー量（事業所光熱費）をモニタリング（計量）することで、得られた数値（二酸化炭素排出削減量・吸収量）を「クレジット」として認証し、そのクレジットをカーボン・オフセットや売却など、市場との取引に用いることを実現するために設けられた制度。



出典：経済産業省 J-クレジット制度 HP